

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

2018年5月号

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 小久保 正

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第594号

「会わないほうがうまくいく」そんな特集を『AERA』が組んでいました(二〇一七年一〇月三〇日号)。

日常生活でも、仕事でも、相手と会わない方が円滑に事柄が進む、営業では業務用のLINEを用い、部下への苦言はTwitterで(という事は一四〇字以内で)済ますというのです。

相手と顔を合わせず、SNSで短くやりとりし、しっかりとした応答は求めない、その方が関係も仕事もうまくいく、現代日本で多くの人々がそのように考えている、という特集記事を読みました。

改めて自分の現実を冷静に見つめてみると、同様の状況は、身近な関係の中に幾つも発見可能で、沈思するなら私にも「会わないほうがうまくいく」との感覚が全くないとは言えない、そんな事実が気づかされました。

夫婦や親子、また教会でも、LINEやMAILで連絡を取り合い、面と向かって真剣に話をしたり、深い結びつきを形成していく、そんな機会や気運が著しく減少していることを思われます。

* * * * *
エチオピアの高地に棲息しているというゲラダヒビ。ネットで画像を見ると、何とも強面の種なのですが、彼らは原始的な家族制を有し、サル社会から人間社会への発展を考える上で、恰好の研究対象となつているとのこと。

『サル学の現在』(立花隆・文春文庫)に、河合雅雄さん(京都大学霊長類研究所)との間で「なわばりも順位もないゲラダヒビ」という対話が取められています。

* * * * *
「懇願」や「行動の制御」のために、このヒビは仲間たちに向けて何度も語りかけ、常にコミュニケーションを取っているというのです。

ゲラダヒビに負けるな!



関東運営委員

古賀 博

ることになります。

このゲラダヒビは、約三〇種の発声を、少ないもので二つから三つ、多くなると一四つから一五まで繋いで、一定の意味を持つ音声連携としていくというのです。

このようにして、彼らは何を相手に伝えようとしているのでしょうか。音声連携の持つ意味の第一は「慰撫」、第二に「宥和」という研究結果が記されています。その他、

* * * * *
旧約聖書「創世記」に「人が独りであるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう」(二章一八節)とあります。

「独りであるのは良くない」には、単独では神の創造の使命に到達できないという意味があり、「合う助ける者」の真意は「相方」で、意識すれば「向き合い、語り合う者」だと聞いています。

「創世記」の語り継ぐ、人間創造の使命に立ち返り、ゲラダヒビに負けないよう、平和構築のためのコミュニケーションをしっかりと打ち立てていく必要があります。その第一歩として、身近な関係から、きちんと再構築していかねばならないようです。

(日本基督教団早稲田教会牧師)

関西セミナーハウス活動センター

●2017年度 修学院フォーラム「いのち」第1回

「老いの日をいかに生き、支えるか第1回」

「創られ、ゆるされ、希望を与えられ、老いを生きつつ、老いを支える」

介護福祉士、老年科医師 奈倉 道隆さん
「地域に生きる『ビハラー』をめざして…思いやりとおかげさまの心をもって」

法燈山安明寺坊主、看護師、保健師 大橋 紀恵さん
2018年2月3日(土)



最初に、医師であり僧侶でありながら、キリスト教の求道者であると自認する奈倉道隆氏から「創られ、ゆるされ、希望を与えられ、老いを生きつつ、老いを支える」と言う話を聞いた。自分の弱点を知り、究極の希望に生きること、そのためには仏教にしろキリスト教にしろ、死が終わりではなく永遠なるものへの希望を持つて生きることが大切。



また老いに向かう生活の仕方を工夫すること。病や死を敵視せず、受け入れながら健康に生きること。介護と医療は全く違うことを知り、互いの協力が不可欠である、などが語られた。
続いて僧侶であり、看護師である大橋紀恵氏の話聞いた。地域に生きるビハラーを目指して、思いやりとおかげさまの心をもっての現在の取



大阪市を中心とした児童虐待の支援と対応の現場に長く関わってこられた講師からまず最前線の実情として、①虐待の実態・面前暴力も含めた心理的虐待ケースの増加。実父・実母に次いで義父・義母

り組みは、かつて聖路加病院で学んだことが基本になっていて、キリスト教の福祉への姿勢に学ぶことが多かったと語られた。人生百歳社会はいことなのか、と言う切り出しから、看護師として、また僧侶として嫁として、体験を通して学んだことを具体的に

●2017年度 修学院フォーラム「福祉」第1回
「児童虐待防止のために私たちができること
〜最前線の実情を通して考える〜」

NPO法人児童虐待防止協会 理事長 関西大学客員教授 津崎 哲郎さん
2018年2月10日(土)

共催・会場 京都YWCA

話された。地域に生きる子育ての親たちやお年寄りを交えた取り組みの紹介もあった。お二人とも僧侶でありながらキリスト教との深いかかわりをお持ちで、宗教を超えて、共通の理解が深まった。参加者もそれぞれの体験や課題を語り、良き学び合いとなった。

からの虐待が急増(深刻ケースの多くが、ステップファミリーで生じている。)②対応: 通告のほとんどに対して、各行政における児童相談所が、面談指導(一時保護などをしてない)のみで対応。③虐待を生みやすい背景要因の拡大: 経済格差の広がり、家族の社会的孤立、未熟な親の増加・複雑な家族の増加などが語られた。次にその個別支援として、①保護者支援を社会横断的に行うこと、②虐待のダメージを受けた子どもたち、



および施設から自立する子どもたちの支援を拡充することの必要性について確認した。それらをふまえた上で、私たち市民一人ひとりの行動として、①虐待懸念ケースへの気づきと通告②虐待の背景や支援制度についての学習と理解③里親、週末里親などへの参加④地域におけるハンディ家族への支援活動と各種支援民間活動への参加が提案された。後半、グループに分かれて参加者間で活発な話し合いがなされ、日本社会で運用できる様々な「里親メニュー」の導入や地域社会において大人になっていく社会的養護の子どもを支援していくこと、親支援、コミュニティベースで子育て共同体を作っていくこと、最後には人間中心の社会づくりに向けて様々な立場から行動することを共有した。



今年も佐藤 優さんを講師に迎え、政治とキリスト教を主題とする修学院フォーラムを持った。5回目である。今回のテーマは、緊張が極度に高まりつつある米朝関係についてである。60名もの人が参加した。

講師はまず、特定の政治的課題に対し、キリスト教徒だからこう考えなければならぬという、特定の立場は無い、しかし、個々のキリスト教徒は、特定の政治的課題に対し、それぞれどう考えるべきか、しっかりと押させておくべきである、とされた。

それでは、佐藤さんは昨今

●2017年度 修学院フォーラム「社会」第5回
 「キリスト教徒は激動する国際情勢をどう見るか—米朝関係を中心に」
 作家・元外務省主任分析官 佐藤 優さん
 2018年2月17日(土)

の米朝関係をどうみるか。米国と日本は、北朝鮮に対し、先ず核爆弾とミサイルの開発を止めると迫っているが、北朝鮮は、すでに強力な核爆弾も地球上のどこへでも送り込めるミサイルを持ってしまっている。もはやそれを止めると言うことは、何の効果もない。今や日本や米国が、朝鮮半島で戦争が起きないように取り得る手段は、極めて限られている。対話と妥協以外にない。朝鮮半島で休戦が破られ、いったん戦争が始まったら、朝鮮国連軍と協力協定を結んでいる日本も戦争に巻き込まれる。それが通常兵器だけの戦争であったとしても、朝鮮半島で第2次世界大戦時と同じ200万人もの犠牲者が予想される。もし核兵器が使われたら、犠牲者は1000万人にもなり、朝鮮半島は人の住めない所となる。これを阻止するには、対



話と妥協しかない。対話と妥協により、経済協力が進み、北朝鮮の人々の生活レベルが上がれば、人々の価値観が変わる。旧ソ連も、生活レベルの向上により、社会主義体制が緩んでいった。北朝鮮が核兵器とミサイルを持つてしまった今では、制裁一辺倒は何の意味も持たない。信仰者は、現実をリアルにみる。国民の意識は変わり得る。それを信じて国を越えてつながり合い、平和のための共同体を作ることがキリスト教徒の務めである。

●2017年度 修学院フォーラム「いのち」第2回
 「いのちとさんび。ピアノとお話のひととき」
 演奏とお話 ピアニスト 菅野 万利子さん
 2018年3月4日(日)



静かに流れる曲と、時には激しく打つピアノが聞く者の心を落ち着かせ、揺さぶってくれる。バッハの「愛するイエスよ、我らはここに集いて」から始まり、シヨパン、ラフマニノフ、シューマンの曲が続いた。作曲家の身に起きたこと、その信仰の叫びが、菅野さんの解説とともに心に響いた。

後半はお茶の休憩を挟んで、グリーンカーバラキレフ「ひばり」からピアソラの「チャオ・パリ」に続いて、讚美歌の「しずけき河の岸辺を」が演奏された。良い天候と白梅の香るような暖かさがホールに流れた。リスト「ラ・カン

パネラ」、タウネンドの「暗闇に輝く灯」は激しく響き、心を打ってくれた。



プログラム案内

◆**関東活動センター**

■**2018 年度聖書を読む講座 I**

新しい聖書の学び「マルコ福音書をジックリと読む」(第 1 期)(全 10 回)

講師：山口里子さん (日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター)

日時：2018 年 4 月～2019 年 2 月 (8 月休会)

第 2 火曜 18:30～20:00

③ 6 月 12 日、④ 7 月 10 日

会場：早稲田奉仕園スコットホール 222 号室

参加費：1,200 円/学生 500 円

共催：早稲田奉仕園

■**2018 年度関東フォーラム 宗教対話 I**

「日本キリスト教史を読む」II (大正篇全 7 回)

講師：戒能 信生さん (日本基督教団千代田教会牧師)

第 2 回「ホーリネス教会の創始者中田重治の生涯と信仰」

日時：6 月 14 日(木)14:00～16:00

第 3 回「高倉徳太郎 その自我との闘いの生涯」

日時：7 月 12 日(木)14:00～16:00

会場：早稲田奉仕園セミナーハウス 101 号室

参加費：1 回 500 円

■**2018 年度関東フォーラム 宗教対話**

礼拝のためのボイストレーニング

講師：友野 富美子さん (元声優、日本キリスト教団経堂緑岡教会担任教師)

日時：5 月 28 日～6 月 25 日毎週月曜

財団本部 <http://www.academy-nippon.com>
 関東活動センター <http://www.academy-tokyo.com>
 関西セミナーハウス <http://www.kansai-seminarhouse.com/>
 関西セミナーハウス活動センター <http://www.academy-kansai.org>

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー

代表理事 小久保 正

本部事務局

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
 TEL 075-711-2147
 FAX 075-701-5256

関東活動センター

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
 日本キリスト教会館 1 F
 TEL 03-3207-6198
 E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス /

関西セミナーハウス活動センター
 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
 FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス

TEL 075-711-2115
 E-mail:info@kansai-seminarhouse.com

関西セミナーハウス活動センター

TEL 075-711-2117
 E-mail:office@academy-kansai.org

14:00～16:00(全 5 回)

会場：日本聖書神学校

参加費：1 回 1,000 円

◆**関西セミナーハウス活動センター**

■**2018 年度お茶のこころと宗教のこころ**

「聖書をいっしょに読みましょう」

座長：榎本 栄次さん (日本基督教団牧師)

日時：2018 年 4 月～12 月(8 月除く)
 第 1 木曜 13:30～16:30

③ 6 月 7 日、④ 7 月 5 日(全 8 回)

会場：関西セミナーハウス

参加費：1 回 1,500 円 学生 500 円 (抹茶含む)

定員：20 名

■**2018 年度修学院フォーラム「福祉」**

第 1 回「『貧困世代』の未来をどう創るか～若者の貧困を考える～」

講師：藤田 孝典さん ((特活)ほっとプラス代表理事、聖学院大学人間福祉学部客員准教授)

日時：2018 年 6 月 9 日(土)

15:00～18:00

会場：京都 Y W C A

参加費：1,000 円、学生 500 円

(茶菓付き)

共催：京都 Y W C A

■**2018 年度修学院フォーラム「社会」**

第 3 回「民族主義と普遍主義のはざままで:旧約聖書から国際平和を考える」

講師：月本 昭男さん (上智大学特任教授)

日時：6 月 30 日(土)13:30～17:30

会場：関西セミナーハウス

参加費：2,300 円、学生 1,000 円 (コーヒー込)

■**2018 年度修学院フォーラム「いのち」**

第 1 回「老いの日をいかに生き、支えるか-2」

「往きの医療 vs 還りの医療-わたしたちはどんな死に方をしたいのか?」

講師：島田 宗洋さん (救世軍清瀬病院名誉院長)

日時：7 月 7 日(土)13:30～17:30

会場：関西セミナーハウス

参加費：2,300 円、学生 1,000 円 (コーヒー込)

■**2018 年度開発教育セミナー**

第 1 回「開発教育入門セミナー」

講師：開発教育研究会

日時：6 月 24 日(日)10:00～16:00

会場：京都市国際交流会館

参加費：1,000 円

共催：京都市国際交流協会

賛助会費・寄付金報告

2018 年 4 月 1 日～4 月 30 日

(順不同・敬称略)

◆**財団本部**

寄付金

奥田 豊 100,000
 武藤 高司 10,000
 横野 朝彦 30,000

◆**関東活動センター**

賛助会費

吉田 豊 3,000

寄付金

高畑 昭久 5,000

◆**関西セミナーハウス**

寄付金

武藤 高司 10,000
 牛尾 宣夫 10,000

◆**関西セミナーハウス活動センター**

賛助会費

上條 美代子 5,000
 山本 貴之 5,000
 鳥井 清司 5,000
 鳥井 操 5,000
 柳井 一朗 5,000
 シュペネマン クラウス 10,000
 藤井 伸枝 3,000
 浅川 具美 10,000
 木下 壽子 5,000
 黒田 睦子 3,000
 中村 信博 10,000
 林 律 10,000
 松岡 蓉子 5,000

川北 かおり 20,000

李 善恵 5,000

浦 晴子 5,000

吉中 直子 5,000

相浦 和生 3,000

平林 喜博 5,000

浅田 涼子 10,000

早川 良彌 5,000

立石 昭三 5,000

多木 秀雄 5,000

公益財団法人京都 Y M C A 10,000

五十嵐 萬里子 5,000

高谷 泰市 5,000

寄付金

田中 義信 3,000

南 和子 1,000

多田出 佳代子 1,000

東 千代 1,000

君村 千代子 1,000

米澤 敏子 1,000

山本 良昭 1,000

廣瀬 芳之 1,000

佐々木 紘児 1,000

藤本 和子 1,000

安野 優美 1,000

根岸 宏邦 5,000

中村 信博 30,000

浦 晴子 5,000

平林 喜博 5,000

早川 良彌 5,000

以上、感謝をもってご報告申し上げます。